ニュース

(一社)日本コンクリート診断士会（JCD）第3回業務体験発表会の報告

奥　田　由　法*

1.　日本コンクリート診断士会の活動

公益社団法人日本コンクリート工学会（以下JCI）が，来るべき社会資本の総維持管理時代の到来を予測して，コンクリート構造物の維持管理を行うための技術者を育成する目的で2001（平成13）年に創設した「コンクリート診断士制度」は15年目を迎え，これまでに13 015名の合格者を輩出しています。

一方，「資格取得後の技術の研鑽」と「社会資本として構築された地区のコンクリート構造物の維持管理に貢献する」趣旨で設立された各地区のコンクリート診断士会（以下，診断士会）を，地区を跨いだ全国組織として一般社団法人日本コンクリート診断士会（Japan Concrete Diagnosis association，以下JCD）が誕生したのは2010（平成22）年7月でした。設立当初は14地区の正・賛助会員636人，法人会員45社でしたが，現在は17地区に1 244人の診断士（正会員）が参加しています。表-1および図-1にJCDに参加している地区診断士会とその会員数の推移を設立順に示します。まだ資格取得者の1割程度の組織ですが，地区を拠点として活動する地区診断士会と連携をとりながら活発に活動しています。

表-1　日本コンクリート診断士会（JCD）会員数*1の推移

地区診断士会名	設立時	現　在
福井県コンクリート診断士会	50	116
鳥取県コンクリート診断士会	34	44
島根県コンクリート診断士会	43	77
東京コンクリート診断士会	140	207
石川県コンクリート診断士会	55	80
NPO法人大分県コンクリート診断士会	49	72
青森県コンクリート診断士会	24	50
静岡コンクリート診断士会	45	68
高知県コンクリート診断士会	21	35
京滋コンクリート診断士会	14	14
新潟県コンクリート診断士会	80	112
北海道コンクリート診断士会	62	129
東海コンクリート診断士会	7	100
長野県コンクリート診断士会	12	68
広島県コンクリート診断士会	−	80
宮崎県コンクリート診断士会	−	95
福岡県コンクリート診断士会	−	47
日本コンクリート診断士会直接入会	−	12
計（人）	636	1 406
法人会員（社）	45	71

*1　個人正会員，個人賛助会員および学術会員（2016. 1末現在）

2.　業務体験発表会の開催

橋梁，トンネル，港湾等コンクリートの施設の健全性の診断を行い必要な対策を立てる場合の拠りどころとなっているのは，土木学会の「コンクリート標準示方書・維持管理編」，JCIの「ひび割れ指針」を筆頭に各機関の点検要領・マニュアル等です。しかしながら，実際の現場では教科書通りにいく場合は少ないのが実情です。基礎的データを基に「エンジニアリングジャッジ」を取り入れる部分も多くあり，新設構造物以上に経験がものをいう分野だと思います。その経験を地区から発信し，全国の会員に水平展開することを目的に「業務体験発表会」として2014年2月に第1回，11月に第2回が東京にて開催されました。2015年度は地方開催の要望も強くあり，塩害・ASR対策の先駆けとなっている石川県に会場を移し，昨年11月27日（金）に金沢市にて開催されました。

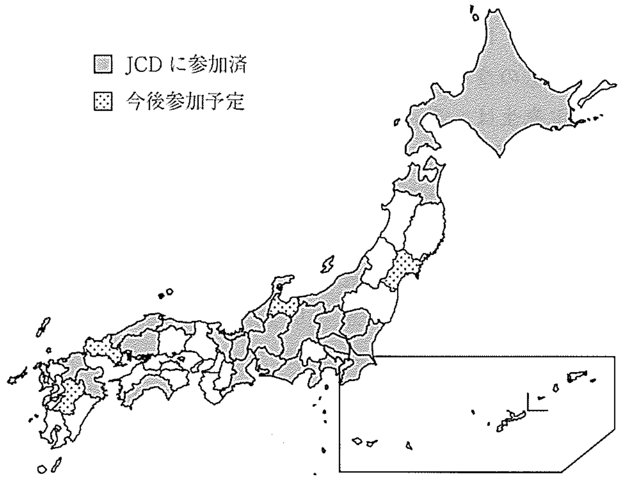

図-1　JCDに参加している都道府県

*　おくだ・よしのり／(一社)日本コンクリート診断士会　技術部会長／石川県コンクリート診断士会　(正会員)

表-2　第3回業務体験報告会の題目と発表者

	題　　目	発 表 者	所　属
1	横締め破断が確認されたASR劣化PCT桁の耐荷性評価	亀田　浩昭	石　川
2	塩害の影響を受けた道路構造物の補修設計事例	柴原　　幸	福　井
3	半世紀経過した堰堤の劣化事例	徳武　雅博	長　野
4	カメラ撮影によるひび割れ調査例	柳　　益男	新　潟
5	打音検査システム	斎田　浩之	東　海
6	コンクリート診断士とサステイナビリティ	木村　克彦	東　京
7	長期耐久性を有する環境に優しい補修材料の開発と適応	佐藤　一也	東　海
8	衝撃弾性波法によるPCシース管グラウト充填度調査	大久保員良	京　滋
9	橋梁補修設計と補修後の効果確認事例紹介	植木　高志	鳥　取
10	場所打RC床版におけるひび割れ抑制対策	熊谷　真孝	静　岡
11	既設RC固定アーチ橋の補修・補強設計事例	児玉　明裕	大　分
12	48年および52年供用された橋梁の劣化度調査	平塚　正人	宮　崎
13	コンクリート探偵団（合同診断演習について）	鈴木　智郎	広　島

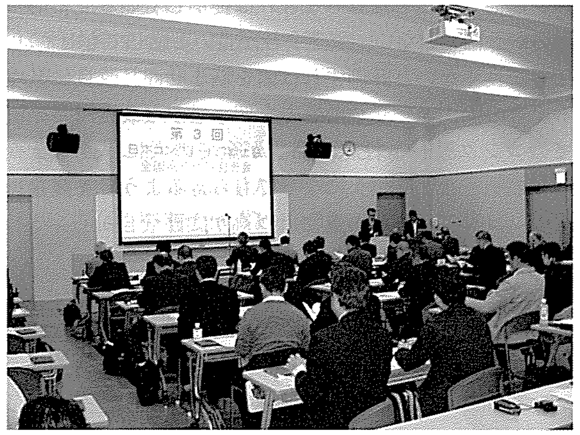

写真-1　業務体験報告会の状況

北陸新幹線開業効果もあってか，遠くは青森，鳥取，宮崎，大分と全国各地区から86名が集い，13名の会員の方が発表されました。発表の題目と発表者を表-2に示します。いずれもコンクリート構造物の維持管理に欠かせない種々の分野の発表であり，全国組織でなければ聴くことができないような味のある内容が多くありました。発表ごとの質問タイムでは，質問のみならず，見解・提案までが各分野の専門家から出され，時に熱い議論となり司会者を慌てさせる場面もありました（写真-1）。

紙面の都合で個々の内容を詳しくは紹介できませんが，「維持管理におけるPDCAサイクルについて，様々なコンクリート構造物を対象に実業務で体験したことを報告していただいた貴重な発表であった」と講評しました。特に印象に残ったのを挙げるとすれば，6と13です。いずれも主題の業務体験とは少し距離を置いた発表でしたが，木村会員は，今，地球規模で課題となっているサステイナビリティ（"Sustainability"＝持続可能性）をコンクリート分野に視点を当てた場合に，診断士の担う役割を掲げ，技術力の研鑽と合わせて行動規範の重要性を述べ，JCDの今後の針路を示唆した内容でした。鈴木会員は，市内にあるコンクリート構造物のひび割れ・遊離石灰などのいろいろな変状を案内人の引率で見て回り，定期勉強会（サロン）で発表するというユニークな活動の発表でした。○○研修会など堅苦しい催しでなく，大人の"探偵ごっこ"（失礼）を通して会員のスキルアップを図る活動で，地区会で取り入れたら面白い活動ではないかと感じました。今回は13名もの方の発表で，5時間にわたる長丁場でしたが，会場の参加者からも笑いを誘ったトリを飾るにふさわしい発表でした。

（報文は，JCD会員はHPの会員専用ページからダウンロードできますが，非会員は事務局へご連絡下さい。）

3.　JCDへの参加の勧め

平成25年6月に「道路法等の一部を改正する法律」が公布され，5年ごとの全ての構造物の「点検・診断」が義務づけられました。点検・診断の次にくるのが対策です。前述しましたが，これら一連のPDCAサイクルの中のいずれの部分でも経験がものをいう部分が多々あります。個人で経験できる範囲は限られていますが，この発表会では地区だけでなく全国の事象を「見聞」することが可能です。

コンクリート診断士が活躍する分野は様々であり，果たす役割はますます大きくなっていくと思います。まだ診断士会が設立されていない地区にはJCDが設立の応援をします。JCDに参加して身近なインフラの維持管理のために一緒に汗を流しませんか。

ホームページ　http://www.jcd-net.or.jp
E-mail：info@jcd-net.or.jp　TEL：042-328-0337